

第 13 回遠州広域行政推進会議 次第

日 時 : 平成 29 年 8 月 16 日 (水) 午後 3 時から午後 5 時まで
会 場 : 湖西市新居地域センター 2 階 大会議室

- 1 開会
- 2 座長あいさつ
- 3 開催市長あいさつ
- 4 報告事項
(1)地域資源を活かした広域観光の推進について（最終報告）
- 5 議 題
(1)日本遺産認定に向けた取り組みについて
(2)インバウンドを見据えた広域連携のあり方について
- 6 その他
- 7 閉会

第13回遠州広域行政推進会議（8/16）

出席者一覧

市 町	出席者	
浜松市	市長	鈴木 康友
磐田市	市長	渡部 修
掛川市	市長	松井 三郎
袋井市	市長	原田 英之
湖西市	市長	影山 剛士
御前崎市	市長	柳澤 重夫
菊川市		(欠席)
牧之原市	市長	西原 茂樹
森町	町長	太田 康雄

第 13 回遠州広域行政推進会議 座席表

湖西市新居地域センター
2階 大会議室

浜松市長
鈴木 康友

湖西市市長
影山 剛士

磐田市長
渡部 修

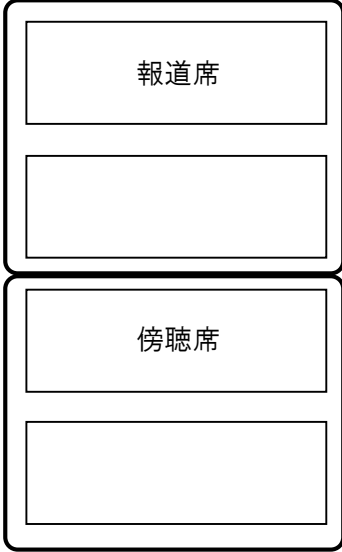
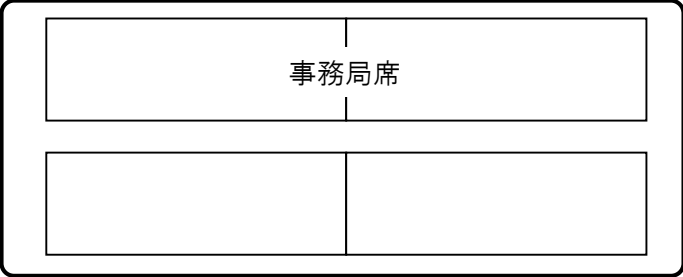
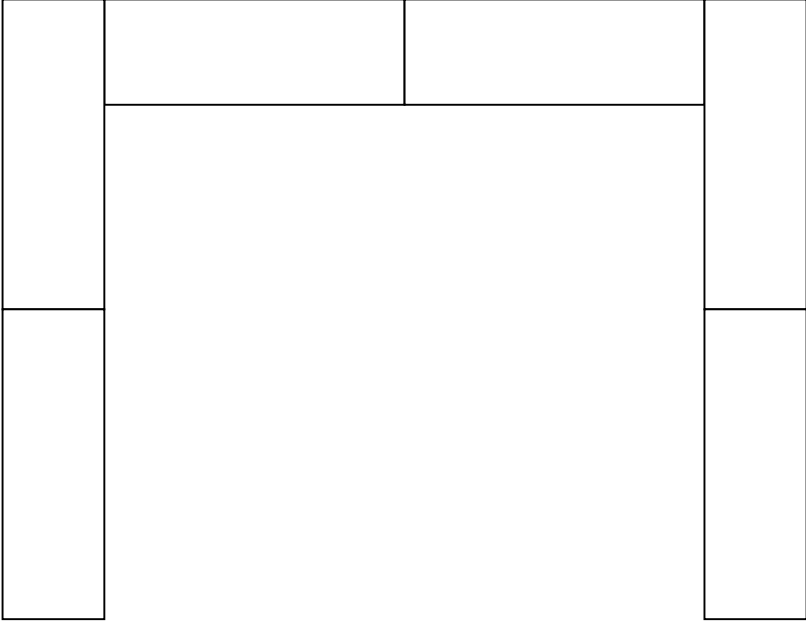
掛川市長
松井 三郎

袋井市長
原田 英之

御前崎市長
柳澤 重夫

森町長
太田 康雄

牧之原市長
西原 茂樹



出入口

第 13 回

遠州広域行政推進会議

会議資料

開催日：平成 29 年 8 月 16 日(水)

開催地：湖西市

会議資料

- 資料 1 地域資源を活かした広域観光の推進について(最終報告)
- 資料 2 日本遺産認定に向けた取り組みについて
- 資料 3-1 インバウンドを見据えた広域連携のあり方について
- 資料 3-2 インバウンド関連施策実施状況一覧
- 資料 4 平成 30 年度以降の三遠南信地域連携ビジョン推進会議(SENA)負担金(案)について
- 資料 5 第 2 次三遠南信地域連携ビジョンの策定について
- 資料 6 第 25 回三遠南信サミット 2017 in 遠州について

地域資源を活かした広域観光の推進について（最終報告）

1 経緯と目的

観光振興は、広域で取り組むことによりポテンシャルの拡大などが期待される。

平成 29 年大河ドラマ“おんな城主 直虎”の静岡県内における経済波及効果は、179 億円とされており(平成 28 年 4 月 14 日 日本銀行静岡支店発表)、全国から注目される井伊直虎を足掛かりとして、遠州地域の魅力や地域資源を活用した広域観光の推進が期待されるため、遠州広域に共通するテーマとして事業を実施する。

2 体制

静岡県西部地区観光協議会^{§1}(以下、西観協)では、平成 28 年度の主要推進テーマとして歴史資源を活用した周遊宣伝を進める旨を決定しており、いわゆる武将観光の充実を目指していることから、これら既存の枠組みの充実を図る。

広域連携組織としては、西観協及び「おんな城主 直虎」推進協議会^{§2}(以下、直虎推進協議会)の体制を活用する。

また、「直虎ゆかりの地サミット」を構成する 11 市町^{§3}との関係を強固なものとし、更なる広域的な連携に努める。

§1 静岡県西部地区観光協議会

浜松市観光・シティプロモーション課、(公財)浜松観光コンベンションビューロー、舘山寺温泉観光協会、遠州鉄道営業推進部、舞阪町観光協会、奥浜名湖観光協会、浜名湖遊覧船、天竜浜名湖鉄道営業課、(公財)浜松市花みどり振興財団、はままつフルーツパークときのすみか、湖西市商工観光課、磐田市商工観光課、掛川市商業観光課、袋井市産業振興課、御前崎市商工観光課、菊川市商工観光課、森町観光協会(森町産業課)、袋井市観光協会

§2 「おんな城主 直虎」推進協議会

湖西市、浜松市、御前崎市、静岡県、愛知県新城市、長野県飯田市・高森町及び観光・商工団体、民間企業により構成

§3 「直虎ゆかりの地サミット」を構成する 11 市町

彦根市、岡崎市、新城市、飯田市、高森町、湖西市、袋井市、掛川市、御前崎市、静岡市、浜松市

3 これまでの取り組み [次頁の参考資料に写真添付]

- 直虎推進協議会にて、井伊家ゆかりの地、戦国武将ゆかりの地等を巡る一泊二日のモデルコース及び戦国ゆかりの地観光ポイント等のマップを掲載した「井伊直虎の巻」を作成。
- 平成 29 年 6 月 4 日(日)「直虎ゆかりの地サミット in 浜松」開催
直虎にゆかりのある 11 市町の代表者らがそれぞれの魅力を発信し、強固に連携しながら持続的な発展と交流人口の拡大を進める「直虎宣言」を行った。
- 平成 29 年 6 月 30 日(金)～7 月 1 日(土)
「ふじのくに袋井 夏の観光キャンペーン 2017」開催
東京シティアイにおいて、袋井市、掛川市、磐田市、森町、浜松市でブースを出展し、各市町が連携した PR を行った。
- 首都圏、中京圏等でのイベントに出展し、直虎 PR ステージ等の実施(出世大家康くん、出世法師直虎ちゃん)、PR パンフレット「井伊直虎の巻」、「遠州路戦国歴史めぐりの旅」の配布、子ども甲冑試着体験の実施などを行った。

4 これからの取り組み

「直虎宣言」に基づく関係団体と連携したイベントをはじめ、浜松市のマスコットキャラクター「出世大名康くん」と「出世法師直虎ちゃん」の呼び掛けによる武将キャラクターイベントを開催する。特に、静岡県西部に対する認知度が高い中京圏でのイベントへの出展等を通じて、誘客を図るとともに、先進的な地位とブランド化の確立を目指す。

また、平成31年度(4～6月)に予定されているデスティネーションキャンペーンの静岡県開催に向け、城山の活用等の観光素材の磨き上げ、旅行商品の開発等を実施する。

これらの取り組みをメディアや旅行雑誌等を通じて広く発信していくことで、誘客の増加や延泊者の増加、大河ドラマ終了後の持続的な加速につなげていく。

5 広域連携事業

- 直虎サミットの実施
- 直虎広域マップの作成
- 「遠州路戦国歴史めぐりの旅」による広域スタンプラリーの実施
- 戦国BASARA アプリによる広域スタンプラリーの実施
- 共同誘客イベントの実施

《 参考資料 》



NEOPASA 岡崎春の陣出展ブース等(2017.5.3～5.7)



首都圏(東京海上日動ビル本館前広場)でのイベント(2017.5.30～5.31)



ふじのくに袋井 夏の観光キャンペーン 2017 出展ブース(2017.6.30~7.1)

日本遺産認定に向けた取り組みについて

現在、三遠南信地域連携ビジョン推進会議(SENA)の枠組みとこれまでの協議成果を活用し、三遠南信の無形民俗文化財を中核として、文化庁の「日本遺産」認定を目指す取り組みを進めています。

1 経緯

平成 27 年度

第 11 回遠州広域行政会議にて提案

第 23 回三遠南信サミット(豊橋市)にて、「日本遺産をめざす」とサミット宣言。

平成 28 年度

第 24 回三遠南信サミット(飯田市)にて、「日本遺産の連携を生かし、無形民俗文化財の保存・継承に向けた取り組みを進める」と宣言。

2 現状

浜松市、豊橋市、飯田市の文化財・観光・企画担当者が協議を継続。

ストーリーの再構成、構成文化財の絞り込み。

SENA 加盟市町村の増加(35→39 市町村)により、構成内容を再検討。
文化庁記念物課との事前協議を継続。

3 文化庁との協議内容

- ▶ 文化庁としては、全 47 都道府県すべてに日本遺産を認定したい。
- ▶ (認定のない)静岡県からの申請を積極的に期待する。
- ▶ 外国人観光客に知られざる日本の魅力を紹介する。
- ▶ 観光客が訪ねることができる不動産(記念物・有形建造物等)を中核に据えること。無形民俗文化財は、いわばサプライズ(付加価値)としてストーリーに盛り込む。
- ▶ 構成文化財の写真は、文化財紹介のようなかたい写真ではなく、観光客が行きたくなるような観光写真を提出する。
- ▶ ストーリーは、観光ガイドブックを参考にする。文化財の解説では不可。
- ▶ 申請に参加する市町村それぞれに、最低 1 件の構成文化財が必須となる。
- ▶ 認定後の「地域活性化計画」を重視する。

4 今後の計画

- ① 文化庁との協議を基にストーリー案を再考。
- ② 新ストーリー案を SEN A39 市町村に示し、改めて申請への参加の意志を確認。
- ③ 参加市町村から、必要に応じて構成文化財の候補を追加提案。
 - ・ 国指定の無形民俗文化財
 - ・ 未指定も含めた史跡・名勝・天然記念物、有形文化財
 - ・ ストーリーを補完するものとしての食・産業・体験できるイベント等
- ④ 参加市町村(代表)の協議により、ストーリーと構成文化財を仮に確定。
- ⑤ 第 25 回三遠南信サミット(浜松市)にて、申請内容(骨子)を報告。
- ⑥ 30 年 2 月上旬に予定される申請期間内に、静岡県教委を経由して申請。
- ⑦ 30 年 4 月下旬 認定の採否について文化庁から発表予定。

5 課題

- ▶ 日本遺産認定は、2020 東京オリンピック・パラリンピックに向けたインバウンド観光を念頭にした事業である。認定後の「日本らしさ」や「日本人の精神性」など“コト”体験を重視するため、日本遺産の構成要素を中核として、遠州地域の豊富な地域資源それら遺産を活用したインバウンド推進を図る。
- ▶ ストーリーは、広域連携を前提とした骨子的なものになるため、遠州地域あるいは各市町において、サブストーリーを構築して展開することが期待される。
- ▶ 民間とも連携して、認定後における具体的な観光支援策、文化財の活用策を検討していく必要がある。

参考 日本遺産とは(文化庁文化財部記念物課)

文化庁が観光庁等と連携して、地域の歴史的魅力や特色を通じて我が国の文化・伝統を語るストーリーを「日本遺産(Japan Heritage)」として認定し、ストーリーを語る上で不可欠な魅力ある有形・無形の様々な文化財群を総合的に活用する取組を支援する事業。

●日本遺産として認定するストーリーが満たすべき3つの要件

- ① 歴史的経緯や地域の風習に根ざし、世代を越えて受け継がれている伝承・風習を踏まえている。
- ② 地域の魅力として発信する明確なテーマが設定され、ストーリーの中核には地域に根ざして継承保存されている文化財を据えること。文化財は未指定のものも含めて良いが、最低1件の国指定・国選択文化財を含める。
- ③ 単に地域の歴史や文化財の価値を解説するだけでは不可。

●日本遺産として認定するストーリーの種類

種類	地域型	シリアル型
説明	単一の市町村でストーリーが完結。	複数の市町村を結んだストーリー展開。
申請条件	歴史文化基本構想または歴史的風致維持向上計画策定済の市町村。※ 世界文化遺産（候補）のある市町村。	無し。

申請者は市町村とする。シリアル型の場合は、市町村の連名。いずれも県教委を經由して申請。

※例 浜松市を含む三遠南信地域の自治体の多くは、歴史文化基本構想などが未策定であり、地域型での申請条件を満たせない。→シリアル型の選択以外余地なし。

◎文化庁の見解

政府が掲げる外国人旅行者数 4,000 万人／年の達成という目標を踏まえ、2020 年の東京オリンピック・パラリンピックまでに 100 件程度の認定を予定している。文化財版クール・ジャパン。「日本遺産は、観光庁と連携した観光振興策である。」

日本遺産は日本各地にバランス良く配置し、ブランド力を保つために件数は限定する。申請は、年1回。都道府県を通じて公募する。(H29実績では1月公募、2月上旬〆切) 47都道府県から累計229件の申請。→これまでに54件を認定した。

認定したストーリーには、日本遺産魅力発信推進事業*という補助金を交付。

*日本遺産魅力発信推進事業

認定後3年間のソフト事業を補助率100%で支援。その後は自立・自走を求める。

限度額 1年目4,000万円、2年目2,000万円、3年目1,000万円。

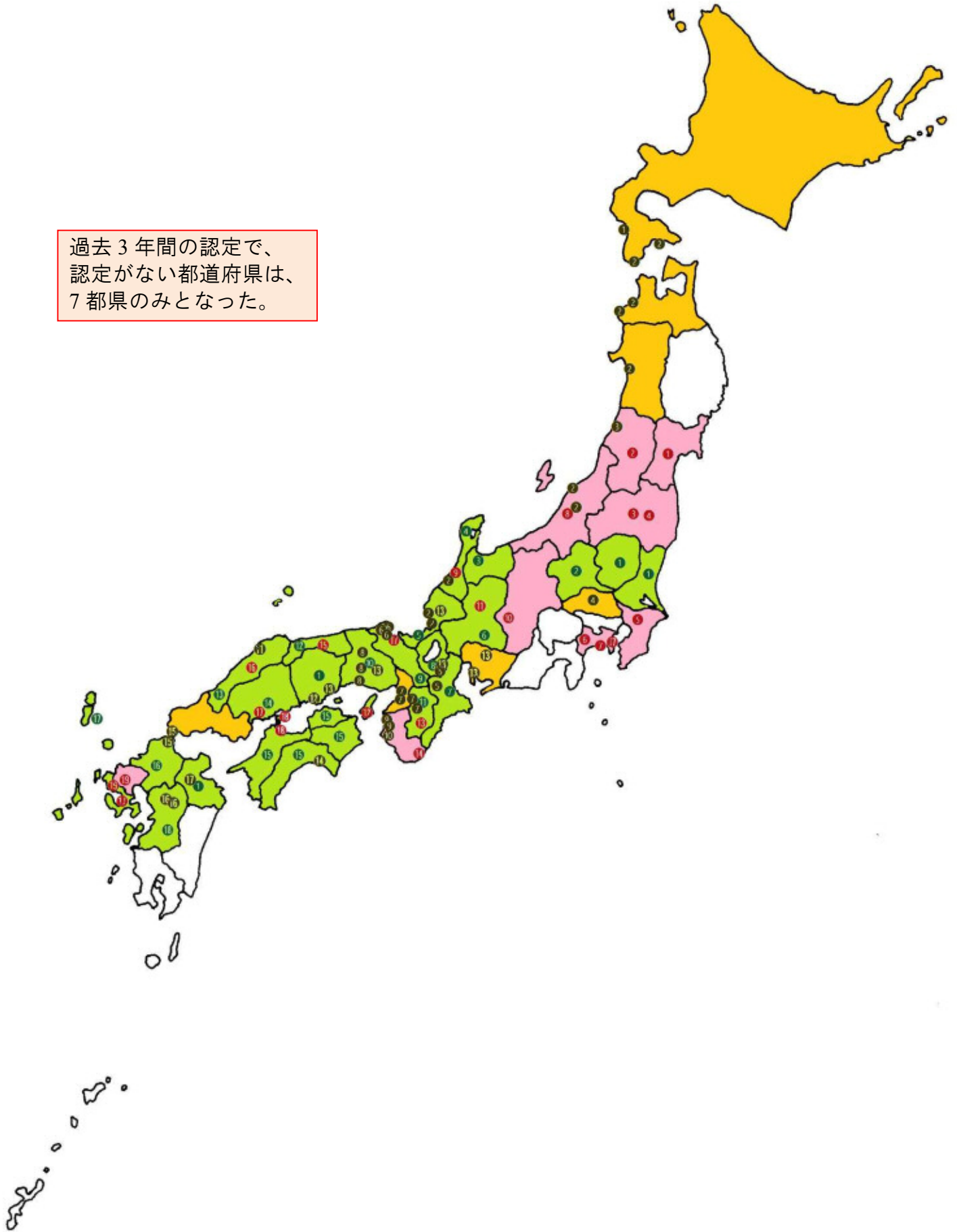
※ハード事業については、日本遺産を核として、国交省など別事業への申請を期待。

●日本遺産 都道府県別認定状況 (H29年4月現在)

平成 27 年度 (認定 18 件 / 申請 83 件)		
1	近世日本の教育遺産群～学ぶ心・礼節の本源～	S 水戸市・足利市・備前市・日田市
2	かかあ天下～ぐんまの絹物語～	S 桐生市・甘楽町・中之条町・片品村
3	加賀前田家ゆかりの町民文化が花咲くまち高岡～人、技、心～	R 高岡市
4	灯り舞う半島能登～熱狂のキリコ祭り～	S 七尾市・輪島市他全 6 市町
5	海と都をつなぐ若狭の往来文化遺産群～御食国若狭と鯖街道～	S 小浜市・若狭町
6	「信長公のおもてなし」が息づく戦国城下町・岐阜	R 岐阜市
7	祈る皇女斎王のみやこ斎宮	R 明和町
8	琵琶湖とその水辺景観～祈りと暮らしの水遺産～	S 大津市・彦根市他全 7 市
9	日本茶 800 年の歴史散歩	S 宇治市・城陽市他全 12 市町村
10	丹波篠山デカンショ節～民謡に乗せて歌い継ぐふるさとの記憶～	R 篠山市
11	日本国創生のとき～飛鳥を翔た女性たち～	S 明日香村・橿原市・高取町
12	六根清浄と六感治癒の地～日本一危ない国宝鑑賞 以下略～	R 三朝町
13	津和野今昔～百景図を歩く～	R 津和野町
14	尾道水道が紡いだ中世からの箱庭的都市	R 尾道市
15	四国遍路～回遊型巡礼路と独自の巡礼文化～	S 四国四県内 57 市町村
16	古代日本の西の都～東アジアの交流拠点～	R 太宰府市
17	国境の島舌岐・対馬・五島～古代からの架け橋～	S 対馬市・舌岐市他全 4 市町
18	相良 700 年が生んだ保守と進取の文化	S 人吉市・錦町他全 10 市町村
平成 28 年度 (認定 19 件 / 申請 67 件)		
1	政宗が育んだ“伊達”な文化	S 仙台市・塩竈市・多賀城市・松島町
2	自然と信仰が息づく「生まれかわりの旅」～副題省略～	S 鶴岡市・西川町・庄内町
3	会津の三十三観音めぐり～巡礼を通して観た往時の会津の文化～	S 会津若松市他全 16 市町村
4	未来を拓いた「一本の水路」～大久保利通最後の夢 以下副題略～	S 郡山市・猪苗代町
5	北総四都市江戸紀行・江戸を感じる北総の町並み～副題省略～	S 佐倉市・成田市・香取市・銚子市
6	江戸庶民の信仰と行楽の地～巨大な木太刀を担いで「大山詣り」～	R 伊勢原市
7	「いざ、鎌倉」～歴史と文化が描くモザイク画のまちへ	R 鎌倉市
8	「なんだ、コレは！」～信濃川流域の火焰型土器と雪国の文化～	S 三条市・新潟市他全 5 市町
9	「珠玉と歩む物語」小松～時の中で磨き上げた石の文化～	R 小松市
10	木曾路はすべて山の中～山を守り山に生きる～	S 南木曾町・大桑村他全 7 市町村
11	飛騨匠の技・こころ～木とともに、今に引き継ぐ 1300 年～	R 高山市
12	「古事記」の冒頭を飾る「国生みの島・淡路」～副題省略～	S 淡路市・洲本市・南あわじ市
13	森に生まれ、森を育んだ人々の暮らしとこころ～副題省略～	S 吉野町・下市町他全 8 町村
14	鯖とともに生きる	S 新宮市他全 4 市町
15	地藏信仰が育んだ日本最大の大山牛馬市	S 大山町・伯耆町・江府町・米子市
16	出雲国たたら風土記～鉄づくり千年が生んだ物語～	S 雲南市・安来市・奥出雲町
17	鎮守府横須賀・呉・佐世保・舞鶴～日本近代化の躍動 以下略～	S 呉市・横須賀市・佐世保市・舞鶴市
18	日本最大の海賊の本拠地・芸予諸島～よみがえる村上海賊 以下略～	S 今治市・尾道市
19	日本磁器のふるさと肥前～百花繚乱のやきもの散歩～	S 唐津市・佐世保市他全 8 市町
平成 29 年度 (認定 17 件 / 申請 79 件)		
1	江差の五月は江戸にもない～ニシンの繁栄が息づく町～	R 江差町
2	荒波を越えた男たちの夢が紡いだ異空間～北前船寄港地・船主集落～	S 酒田市・函館市・秋田市他全 11 市町
3	サムライゆかりのシルク～日本近代化の原風景に出会うまち鶴岡へ～	R 鶴岡市
4	和装文化の足元を支え続ける足袋蔵のまち行田	R 行田市
5	忍びの里 伊賀・甲賀～リアル忍者を求めて～	S 甲賀市・伊賀市
6	300 年を紡ぐ絹が織り成す丹後ちりめん回廊	S 宮津市・京丹後市他全 4 市町
7	1400 年に渡る悠久の歴史を伝える「最古の国道」～竹内街道・横大路～	S 大阪市・堺市・葛城市他全 10 市町村
8	播但貫く、銀の馬車道鉱石の道～資源大国日本の記憶をたどる 73km～	S 朝来市・姫路市・養父市他全 6 市町
9	絶景の宝庫 和歌の浦	S 和歌山市・海南市
10	「最初の一滴」醤油醸造の発祥の地 紀州湯浅	R 湯浅町
11	日が沈む聖地出雲～神が創り出した地の夕日を巡る～	R 出雲市
12	一輪の綿花から始まる倉敷物語～和と洋が織りなす繊維のまち～	R 倉敷市
13	きつと恋する六古窯～日本生まれ日本育ちのやきもの産地～	S 備前市・瀬戸市・常滑市他全 6 市町
14	森林鉄道から日本一のゆずロードへ～ゆずが香り彩る南国土佐以下略～	S 安田町・奈半利町・馬路村他全 5 町
15	関門ノスタルジック海峡～時の停車場、近代化の記憶～	S 北九州市・下関市
16	米作り、二千年にわたる大地の記憶～菊池川流域「今昔『水稻』物語」～	S 山鹿市・玉名市・菊池市・和水町
17	やばけい遊覧～大地に描いた山水絵巻の道をゆく～	S 中津市・玖珠町

S: シリアル型、R: 地域型

過去3年間の認定で、
認定がない都道府県は、
7都県のみとなった。



インバウンドを見据えた広域連携のあり方について

1 提案趣旨

- 我が国を訪れる訪日外国人旅行者数は年々増加し、平成 28 年度は約 2,400 万人に達した。今や観光は我が国の成長戦略と地方創生の大きな柱であり、国は地域の魅力向上・活性化、観光の基幹産業化を強力に推進している。
- 一方、観光の形態は団体から個人、モノからコトへと変化し、従来の発地型による観光から着地型観光への変革が求められ、地域では、官民を挙げて観光による地域づくりに取り組むことが求められている。
- こうした中、2019 年のラグビーワールドカップ、2020 年の東京オリンピック・パラリンピックなど、海外からの誘客が見込まれる大型イベントが開催される。
- また、この時期に併せて静岡県では、国内最大級の観光キャンペーンであるデスティネーションキャンペーンも開催され、本地域においては、それぞれが観光商品を造成し磨き上げるとともに、より誘客効果を高めるため具体的に連携を深める必要がある。
- こうしたチャンスをも十分に活かし、地域の魅力向上・活性化と同時に、国内外の観光需要を適切に取り込んでいくために、インバウンドを見据えた広域連携のあり方について確認する。

2 各市町の現状と課題

《現状》

- 広報媒体の多言語化(ガイドブック、パンフレット、ホームページなど)【全市町】
- 既存の広域連携組織(※裏面参照)の枠組みを活用した海外セールス、プロモーション活動の実施【全市町】
- 公共無線 LAN の整備【浜松市、磐田市、掛川市、袋井市、湖西市】
- 公共サイン整備計画の策定【袋井市】
- 着地型観光商品の開発【浜松市、袋井市】

《課題》

- 団体ツアーから FIT(個人旅行者)への旅行形態の変化に即応した情報提供・誘客 PR【浜松市、湖西市、牧之原市】
- 受入環境整備状況(多言語・多文化対応、無料 Wi-Fi 整備、クレジットカード決済対応)、整備状況の効果的な情報発信【袋井市、掛川市、湖西市】
- 市町単独での PR・多言語対応の限界【磐田市、湖西市、御前崎市、森町】

3 連携・研究を希望する事項

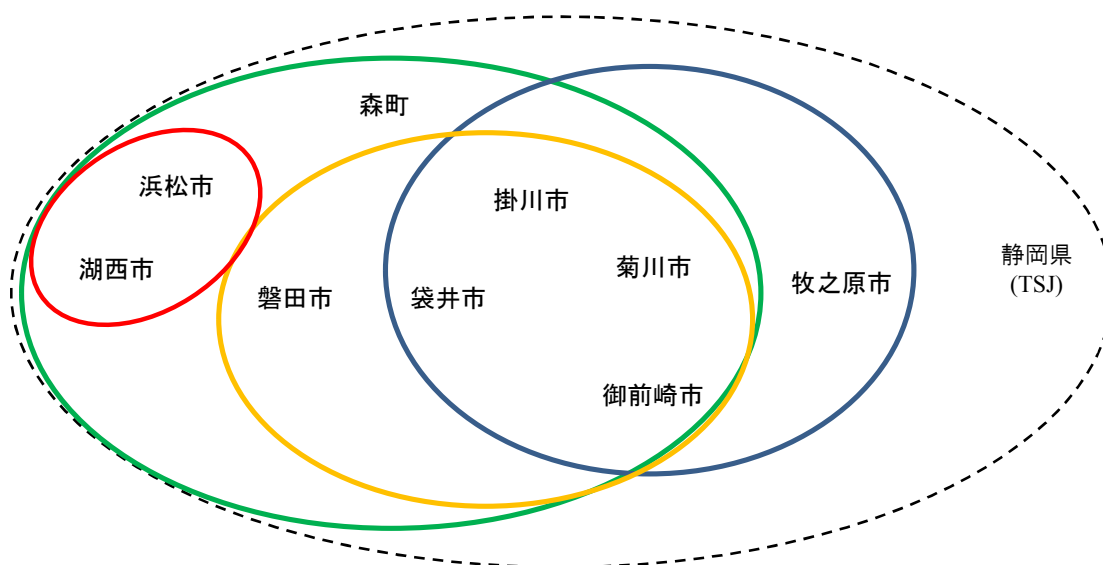
- ラグビーワールドカップ 2019、2020 東京オリンピック・パラリンピックを見据えた PR 活動【浜松市、掛川市、袋井市、森町】
- デスティネーションキャンペーンと連動した受入体制づくり、広域観光ルート・滞在プログラムの造成、情報発信【浜松市、袋井市、湖西市、御前崎市、菊川市、牧之原市】
- 公共サイン、マップ、ガイドブックの多言語化対応【磐田市、森町】
- 先進事例研究(インバウンド受入実績のある市町・観光施設による成功事例発表)【袋井市】
- 静岡県及び静岡ツーリズムビューロー(TSJ)への働きかけ【湖西市】

【参考】各市町が参画する既存の広域連携組織の主な取り組み

No	組織名	参画市町	主な事業実績
1	浜名湖観光圏整備推進協議会	浜松市 湖西市	<ul style="list-style-type: none"> ■主たる滞在促進地区を起点とした滞在プログラム企画促進、魅力向上等事業 <ul style="list-style-type: none"> ・「海の湖」ブランド体感プログラム開発事業 (商品造成WG、体験モニターの実施など) ・ぐるっと浜名湖周遊トレイル「ハマイチ」推進事業 (サイクルイベントの開催、サイクリスト受入態勢整備) ・浜名湖舟運とSAゲートウェイ開発推進事業 (PRツール作成、利用者へのヒアリング調査、新航路の開発) ・インバウンド推進事業 (Wi-Fi環境整備、街中マップの増刷、プロモーション活動(台湾、タイ)) ■滞在促進地区・交流地区における滞在・回遊促進事業 <ul style="list-style-type: none"> ・浜名湖おんぱく事業 ・豊田佐吉翁生誕150周年記念事業 ■その他事業 <ul style="list-style-type: none"> ・DMOプラットフォーム推進事業 (体験プログラム販売サイトの改修、情報発信ツールの整備) ・浜名湖フラワーツーリズム推進事業 (浜名湖花フェスタ2017広報・スタンプラリー、誘客ミッション事業) ・景観サイン整備計画策定事業(案内サイン整備計画書、ロゴマーク策定)
2	静岡遠州観光ネットワーク	磐田市 掛川市 袋井市 御前崎市 菊川市 森町	<ul style="list-style-type: none"> ■「2016 B級グルメスタジアムinエコパ」開催事業 ■「ゆるゆる遠州ガイドライド2016-秋-」の開催、サイクルツーリズム事業 ■「地域づくり推進事業助成金」を活用した海外セールス事業 <ul style="list-style-type: none"> ・台湾楽活自転車協会とサイクリスト交流の提携に係る協定締結 ・シンガポール最大級の旅行博「NATAS Travel 2017」への出展
3	静岡県西部地区観光協議会	浜松市 磐田市 掛川市 袋井市 湖西市 御前崎市 菊川市 森町	<ul style="list-style-type: none"> ■観光宣伝事業 <ul style="list-style-type: none"> ・静岡県大型観光キャンペーンへの参加 (東京・横浜・大阪・名古屋・静岡等での商談会への出展) ・広告宣伝事業 (圏域内外で開催されるイベントへの出展、観光PR) ■大河ドラマを活用した静岡県西部地区周遊宣伝事業 <ul style="list-style-type: none"> ・「戦国歴史めぐりの旅」の作成及びスタンプラリーの実施 ・イベントへの出展(ワールドサムライサミット) ・イベント、観光展にて配布する西部地区宣伝ツールの作成 ・雑誌等への記事掲出 ■観光宣伝ツールの作成事業 <ul style="list-style-type: none"> ・「戦国歴史めぐりの旅」スタンプ帳、マップの増刷
4	富士山静岡空港周辺地域観光振興研究会	掛川市 袋井市 御前崎市 菊川市 牧之原市	<ul style="list-style-type: none"> ■調査研究事業 <ul style="list-style-type: none"> ・マレーシア観光調査研究事業(旅行エージェント・メディア招聘・訪問) ■誘客・宣伝事業 <ul style="list-style-type: none"> ・国内外の就航先に対する観光プロモーション(札幌、台湾) ■圏域内イベント連携観光PR事業等 (トーマスフェア千頭会場観光PR、ロゴマーク作成 など)
5	静岡ツーリズムビューロー	全市町	<p>※平成29年1月1日付で静岡観光協会内に新設、同25日に開所。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・海外メディア招致(オーストラリア、フランス) ・ロゴマークの作成(平成29年5月) ・ラグビーワールドカップ2019に向けたPR (ラグビー関係旅行会社との商談会、セミナーへ参加(平成29年5月))

※各組織の平成29年度総会資料、プレスリリースなどから一部抜粋

【参考】各市町が参画する主な広域連携組織



- 1 : 浜名湖観光圏整備推進協議会
- 2 : 遠州観光ネットワーク
- 3 : 静岡県西部地区観光協議会
- 4 : 富士山空港周辺地域観光振興研究会
- 5 : 静岡ツーリズムビューロー

インバウンド関連施策実施状況一覧

自治体名	(1) 各市町の取り組み	(2) 現状と課題	(3) 連携・研究を希望する事項	(4) 備考
浜松市	<ul style="list-style-type: none"> アジア地域をターゲットとした外国人観光客誘致の推進により経済効果の拡大を図っている。 中国杭州市、瀋陽市、台湾台北市との都市間協定や台湾日月潭との官民連携での協定を積極的に活用し、民間交流の活性化を支援している。 プロモーションは、ターゲットごとの旅行形態を設定し、最大の効果を発揮するよう実施している。 日本政府観光局や静岡県海外事務所、公共交通、中部地域の県・政令市等との広域連携により、空港のin-outを意識した活動を展開している。 <p>【観光分野以外の取り組み】</p> <ul style="list-style-type: none"> 「浜松・浜名湖地域 食×農プロジェクト推進協議会」の活動として、訪日外国人対応型着地型・体験型の農林漁業体験メニューの開発・育成を行っている。 ラグビーワールドカップ2019公認キャンプ地への申請、静岡県開催推進委員会への参加 2020東京オリンピック・パラリンピックのホストタウン登録、事前合宿地誘致を行っている。 	<p>■ 現状</p> <ul style="list-style-type: none"> インバウンド市場が団体から個人(FIT)へと急速に変化しており、中国人ツアー客のゴールデンルートを巡る形態も変化し、この影響を受け、本市の外国人宿泊客の80%を占める中国人ツアー客が昨春秋以降激減している。 地域の観光を牽引する組織として、DMOの設立準備中(H30.4設立予定)。 <p>■ 課題</p> <ul style="list-style-type: none"> FIT化が急速に進む中で、既存の行政連携ではなく顧客目線での広域連携が必要とされている(空港のin-out、公共交通機関や高速道路のパス、外国人に人気のある尖った素材を意識した連携等)。 FIT化への対応としてデジタルプロモーションの強化や市場ごとの戦略を官民で共有し、地域が一体となって取り組むことが急務となっている。 外国人受け入れに対する施設等の環境整備や人材育成が課題となっている。 	<p>広範かつ多岐にわたるインバウンド全般ではなく、目前に迫る以下の大型イベントにおける当地域の外国人観光客誘客の観点に絞って可能性と対応方を議論していきたい。</p> <ul style="list-style-type: none"> 2019ラグビーワールドカップ及び2020オリンピック・パラリンピック (議論の前提として、上記大型イベントにおける当地域の外国人観光客誘客の観点での需要予測のデータが必要) デスティネーションキャンペーン(H30プレ、H31本番、H32アフター)及び日本遺産(H29申請の準備中) <p>※ 現在、上記の2つは国内誘客を重視して議論がされているため、外国人観光客誘客に対する考えを事前に調整する必要がある。</p>	<ul style="list-style-type: none"> 「浜松・浜名湖地域 食×農プロジェクト推進協議会」の構成員には湖西市も含まれている。 ラグビーワールドカップ静岡県開催推進委員会には、磐田市、袋井市、掛川市も参加している。
磐田市	<ul style="list-style-type: none"> 公共施設へのWi-Fi環境の整備 観光ガイドブックの多言語化 「遠州観光ネットワーク」でサイクリングや旅行先としてのPR活動を行っている。 	<p>■ 現状</p> <ul style="list-style-type: none"> 磐田駅北口広場や渚の交流館等にWi-Fi環境を整備 4か国5言語でガイドブックを作成(韓国語・中国語2種類・ポルトガル語・英語) <p>■ 課題</p> <p>翻訳できる人材の不足により、細かな言語に対応できない。</p>	<ul style="list-style-type: none"> 多言語に対応した、広域のガイドブックやマップの作成 	
掛川市	<ol style="list-style-type: none"> インバウンド向け(おもてなしとしての)公衆無線LANの官民協働での整備による提供 インバウンド向けのサイト構築(Japan-guide) 広域連携協議会(県西部地区観光協議会、富士山静岡空港周辺地域観光振興研究会)開催のPRイベント等への企画 	<ol style="list-style-type: none"> 現状、市内、64ヶ所整備済み。インバウンドの方に公衆無線LANを提供していることをどう伝えるかが課題。 	<ol style="list-style-type: none"> 直近のラグビーワールドカップは、インバウンドの方にとって市域をまたぐ移動になるため、できる限り連携を図りたい。特に公衆無線LANを提供していることのPRは単独よりも連携した方が効果があると考えられる。 	

インバウンド関連施策実施状況一覧

自治体名	(1) 各市町の取り組み	(2) 現状と課題	(3) 連携・研究を希望する事項	(4) 備考
袋井市	<ul style="list-style-type: none"> インバウンドの推進に向けて、外国語版観光パンフレットや4カ国語ガイドCD(文字データと写真)を作成した。 袋井市観光協会のホームページに英語のページを作成するとともに、多言語自動翻訳機能を搭載した。 案内看板の多言語化など、本市を訪れる人々を円滑に誘導するため「公共サイン整備計画」を策定した。 本市の豊富な観光資源を活かした着地型観光を推進するため、農作物収穫体験プログラムやクラウンメロンの検疫代行システムの活用など、着地型観光商品の開発に取り組んでいる。 「遠州観光ネットワーク」により、台湾やシンガポールへのセールスを継続的に行っている。 	<ul style="list-style-type: none"> 本市へのインバウンド観光客について、具体的な人数は把握できていない。本市のドライブインへは、外国からのツアーが立ち寄っており、タイ・中国・ベトナムの順に多い。しかし、宿泊施設が少ないこともあり、市内の他の観光地にはあまり訪れていないのが現状である。一方、遠州三山等からは、外国人観光客の個人客が、少しではあるが訪れているという報告もある。 インバウンド受入体制については、各施設により意識にばらつきがあり、多言語・多文化への対応、無料Wi-Fi設備、クレジットカード決済などの受入体制は整っていないところが多い。 	<ul style="list-style-type: none"> 2019年ラグビーワールドカップの際には、本市に多くの外国人が訪れることが予想されるが、少しでも長く本地域に滞在していただけるよう、受入や観光地PRの協力体制をとり、各市町の長所を補えるとよい。 インバウンド誘客に向けてのセールスについては、広域連携で取り組むことが効果的であると考えます。 すでにインバウンド受入実績のある市町や観光施設から、成功事例やアドバイスを聞きたい。 	<ul style="list-style-type: none"> 着地型観光商品としては、袋井市ならではのものを提案していきたい。 例) お寺体験「三日坊さんの旅」 可睡齋ひなまつり 遠州三山風鈴まつり クラウンメロン検疫代行システム ブランド茶「きら香」収穫体験 ブランド米「ふくほまれ」収穫体験 浅羽佐喜太郎氏や鳥居信平氏など、海外で活躍した本市の偉人にまつわる場所の見学
湖西市	<ul style="list-style-type: none"> 浜松市と共同で実施している浜名湖観光圏において実施しているインバウンド事業を、市のインバウンド推進の中心施策と位置づけている。 浜名湖観光圏として参加したITF(国際旅行博覧会)2016に職員1名を派遣。 	<ul style="list-style-type: none"> 湖西市単独ではなかなか参加できない海外でのセールスや国内での商談会において、市の観光資源をPRする機会を享受できている。 中国を中心とした団体旅行者のゴールデンルートツアーの宿泊地としての位置づけは変わらず、FIT(個人旅行者)傾向により客数が単純に減少している。 	<ul style="list-style-type: none"> 静岡ツーリズムビューローに対し、遠州地域としてインバウンド誘致のための働きかけを行うことを希望する。 遠州をひとつのエリアとしてストーリー化して、FIT(個人旅行者)が興味を持つような滞在プログラムを造成する。 遠州地域としての統一したターゲット国を設定し、連携したプロモーションを行う。 	<ul style="list-style-type: none"> 湖西市単独ではホテル以外にインバウンドの姿はあまり見られていないため、事業者としてもインバウンド受け入れ意識が低い。 市のパンフレットや観光看板など、多言語化に対応できていない。
御前崎市	<ul style="list-style-type: none"> 市独自で多言語の観光パンフレットを作成している。 県西部地区観光協議会中東遠地区事業として多言語パンフレットの作成を予定している。 富士山静岡空港周辺地域観光振興研究会事業でも台湾へ観光プロモーションを行っている。 	<ul style="list-style-type: none"> 市独自でパンフレットを作成しても、PRすることに限界があり、誘客PRは厳しい。 	<ul style="list-style-type: none"> 広域連携による観光ルートの策定などの体制づくりが必要。 	
菊川市	<ul style="list-style-type: none"> 静岡県西部地区観光協議会中東遠地区事業として外国語パンフレットの作成を予定している。 空港周辺地域観光振興研究会事業でも、国外富士山静岡空港就航先への観光プロモーションを行っている。 	<ul style="list-style-type: none"> 多言語パンフレットを現在作成準備中 	<ul style="list-style-type: none"> DC(デスティネーションキャンペーン)と併せて広域連携による受入体制づくり 	
牧之原市	<ul style="list-style-type: none"> 観光パンフレット及びDVDの多言語化による情報発信事業 	<ul style="list-style-type: none"> 富士山静岡空港を利用する中国などの海外渡航者は増加しており、渡航の形態が団体から個人にシフトしている現状を踏まえ、個人渡航者をターゲットとした情報提供が求められている。 	<ul style="list-style-type: none"> 富士山静岡空港を軸に遠州地域を一体とした広域観光ルートなどの情報提供に関する連携事業 	
森町	<ul style="list-style-type: none"> 5市1町の観光協会が組織される静岡遠州観光ネットワークによる海外セールス事業として台湾、シンガポールへ観光PRを実施。 平成27年度に英語、中国語バージョンの森町観光パンフレットを作成。 	<ul style="list-style-type: none"> 広域での取り組みに比べ、町単独での取り組みはできることが限られてきてしまう。 	<ul style="list-style-type: none"> ラグビーワールドカップ・オリンピックを見据えたPR 公共サインの英語化への対応について 	

平成 30 年度以降の三遠南信地域連携ビジョン推進会議（SENA） 負担金（案）について

- 算出方法は、市町人口(平成 27 年 10 月 1 日国勢調査(確報値))割合を適用する。
- 浜松市は下表の負担金と併せ、別枠として「1,000,000 円」の負担をする。
- 支払方法は、各市から直接 SENA 事務局に納金する。

単位：円(千円未満四捨五入)

市町名	負担割合(案)	負担金額(案)	現行負担金額	増減
浜 松 市	58.3%	1,166,000	1,160,000	6,000
磐 田 市	12.2%	244,000	244,000	0
掛 川 市	8.4%	168,000	169,000	△1,000
袋 井 市	6.3%	125,000	123,000	2,000
湖 西 市	4.4%	87,000	87,000	0
御前崎市	2.4%	48,000	50,000	△2,000
菊 川 市	3.4%	68,000	68,000	0
牧之原市	3.3%	67,000	71,000	△4,000
森 町	1.3%	27,000	28,000	△1,000
合 計	※100.0%	2,000,000	2,000,000	0

※負担割合は端数調整

三遠南信地域連携ビジョン推進会議（SENA）負担金額算出根拠

- 各市町の負担金額は、以下の計算式により算出する。
負担金額(千円未満四捨五入)=SENA 負担金遠州地域総額(200万円)×人口比率(%)
- 千円未満の端数を四捨五入した結果、超過(不足)が生じた場合は、端数の額の小さい順に切り捨て(大きい順に切り上げ)を行う。

平成 22 年 10 月 1 日国勢調査に基づく算出額（現行負担金）

市町名	人口(人)	人口比率	負担金(円) (A)
浜松市	800,866	57.99%	1,160,000
磐田市	168,625	12.21%	244,000
掛川市	116,363	8.43%	169,000
袋井市	84,846	6.14%	123,000
湖西市	60,107	4.35%	87,000
御前崎市	34,700	2.51%	50,000
菊川市	47,041	3.41%	68,000
牧之原市	49,019	3.55%	71,000
森町	19,435	1.41%	28,000
合 計	1,381,002	100.00%	2,000,000

平成 27 年 10 月 1 日国勢調査に基づく算出額（新負担金（案））

市町名	人口(人)	人口比率	負担金(円) (B)	増減(円) (B-A)
浜松市	797,980	58.30%	1,166,000	6,000
磐田市	167,210	12.22%	244,000	0
掛川市	114,602	8.37%	168,000	△ 1,000
袋井市	85,789	6.27%	125,000	2,000
湖西市	59,789	4.37%	87,000	0
御前崎市	32,578	2.38%	48,000	△ 2,000
菊川市	46,763	3.42%	68,000	0
牧之原市	45,547	3.33%	67,000	△ 4,000
森町	18,528	1.35%	27,000	△ 1,000
合 計	1,368,786	100.00%	2,000,000	0

第 2 次三遠南信地域連携ビジョンの策定について

San-En-Nanshin Area Relationship Vision Progressive Conference

1 第 2 次三遠南信地域連携ビジョンの策定について

平成 20 年に計画期間を概ね 10 年と定めて策定した、三遠南信地域連携ビジョンが期間の満了を迎えるため、三遠南信地域一体となった地域づくりの新たな指針となる、第 2 次三遠南信地域連携ビジョン(新ビジョン)を策定します。

2 新ビジョン策定にあたっての基本的考え方

現行の第 1 次三遠南信地域連携ビジョン(現行ビジョン)を基本とし、国土形成計画や中部圏広域地方計画などの国全体の構想や国土構造、人口減少や少子高齢化などの社会情勢の変化、この 10 年間での三遠南信地域での連携の蓄積など、現行ビジョン策定時からの状況の変化をふまえ、現行ビジョンの体系や方針、具体的な実施を見据えた事業を見直すことで、三遠南信地域の目指すべき将来像を定めた新ビジョンへと更新します。

3 新ビジョンの計画期間

概ね 10 年間

4 新ビジョンの範囲

東三河地域	豊橋市、豊川市、蒲郡市、新城市、田原市、設楽町、東栄町、豊根村
遠州地域	浜松市、磐田市、袋井市、湖西市、森町、掛川市、菊川市、御前崎市、牧之原市
南信地域	飯田市、松川町、高森町、阿南町、阿智村、平谷村、根羽村、下條村、売木村、天龍村、泰阜村、喬木村、豊丘村、大鹿村、駒ヶ根市、飯島町、中川村、宮田村、伊那市、辰野町、箕輪町、南箕輪村

5 新ビジョンへと更新する現行ビジョンの主な項目

(1) 現行ビジョンの目的

- ① 道州制や国土形成計画など県境を越える地域づくり制度へのアピール
- ② 経済活動のグローバル化に対応した県境を越える産業競争力の強化
- ③ 市町村合併による地域構造の変化に対応した広域行政の推進
- ④ 地域連携活動の相乗効果の発揮
- ⑤ 県境を越えた社会基盤を活かした地域づくり

(2) 現行ビジョンのテーマ

三遠南信 250 万流域都市圏の創造 ～世界につながる日本の中央回廊～

(3) 現行ビジョンの政策の基本方針

- ・ 道 「中部圏の中核となる地域基盤の形成」
- ・ 技 「持続発展的な産業集積の形成」
- ・ 風土 「塩の道エコミュージアムの形成」
- ・ 山 「中山間地域を活かす流域モデルの形成」
- ・ 住 「広域連携による安全・安心な地域の形成」

6 策定体制

SENA 専門委員会として設置する新ビジョン策定委員会において新ビジョン案を作成し、SENA 総会で決議します。

策定体制のイメージ

<p>SENA 委員会・総会</p>	<p>SENA 常設組織(規約第 7・8 条)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 書面での最終審議・最終決議
<p>SENA 拡大委員会</p>	<p>事業として開催</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 新ビジョンに対する、SENA 委員やその他地域の代表者の意見交換の場とし、サミットと同時に開催するなど状況に応じて開催します。
<p>新ビジョン 策定委員会</p>	<p>専門委員会として設置(規約第 11 条)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 新ビジョン案の作成をします。
<p>SENA 幹事会</p> <p>分科会 分科会 分科会</p>	<p>SENA 常設組織(規約第 10 条)</p> <p>事務局素案の精査。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 分野ごとの方針、重点プロジェクトの整理、重点プロジェクトの内容検討は、3 市で分担して行います。 ・ 道：飯田市、技・風土：豊橋市、山・住：浜松市 <p>分科会</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 重点プロジェクトの内容検討
<p>SENA 事務局</p>	<p>SENA 常設組織(規約第 15 条)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 新ビジョンの素案を作成します。 ・ 作成にあたっては、連携協定を結んでいる愛知大学、地域の専門機関、関係団体等の協力を仰ぎます。

7 基礎調査等

SENA 構成員、連携協定を締結している愛知大学と連携し、現状把握と未来想定に必要な調査を行います。

- ・ 三遠南信地域の人口や経済状況などの基礎データ
- ・ 地域における各活動主体の現行ビジョンにむけた取組等の実施状況
- ・ 地域における各活動主体の新ビジョンにむけた意見

8 策定スケジュール

(1)大まかな流れ

平成 29 年 6 月に新ビジョン策定委員会を設置、同年度に開催予定の第 25 回三遠南信サミット in 遠州で基本方針の検討を行い、平成 30 年度に開催予定の第 26 回三遠南信サミット in 東三河において、最終報告を行います。

(2)詳細なスケジュール

(別紙のとおり)

第2次三遠南信地域連携ビジョン策定委員会 委員等名簿

分類	団体	役職	氏名
委員長	静岡文化芸術大学	副学長	池上 重弘
委員	豊橋技術科学大学	副学長	大貝 彰
委員	法政大学	教授	高柳 俊男
委員	愛知大学	教授	戸田 敏行
委員	浜松市	企画調整部長	山名 裕
委員	御前崎市	総務部長	増田 正行
委員	菊川市	企画財政部長	大野 慶明
副委員長	豊橋市	企画部長	広田 哲明
委員	豊川市	企画部長	池田 宏生
委員	田原市	企画部長	石川 恵史
委員	飯田市	総合政策部長	今村 和男
委員	泰阜村	総務課長	土岐 喜伸
委員	平谷村	総務課長	滝澤 浩
委員	静岡県	知事戦略課長	高畑 英治
委員	愛知県	東三河総局企画調整部長	矢野 浩二
委員	長野県	総合政策課長	伊藤 一紀
委員	浜松商工会議所	専務理事	小杉 和弘
委員	磐田商工会議所	専務理事	鈴木 隆之
委員	湖西市商工会	事務局長	柴田 和利
委員	豊橋商工会議所	専務理事	星野 君夫
委員	豊川商工会議所	専務理事	松下 紀人
委員	新城市商工会	事務局長	山本 政義
副委員長	飯田商工会議所	専務理事	福澤 栄二
委員	駒ヶ根商工会議所	専務理事	富永 満
委員	長野県商工会連合会南信支所	支所長	清水 衆一
委員	地域づくりサポートネット	代表	山内 秀彦
委員	三遠南信住民ネットワーク協議会	世話人	平川 雄一
委員	みらい企画 律	代表	矢澤 律子

分類	団体	役職	氏名
オブザーバー	浜松信用金庫	法人営業部副部長	井口 浩利
オブザーバー	豊橋信用金庫	事業支援部理事・部長	渡邊 寛司
オブザーバー	飯田信用金庫	地域サポート部長	大蔵 雅彦
オブザーバー	国土交通省中部地方整備局	広域計画課長	森山 幸司
オブザーバー	国土交通省中部運輸局	交通政策部計画調整官	岩松 由洋
オブザーバー	国土交通省北陸信越運輸局	交通政策部交通企画課長	高橋 智彦
オブザーバー	経済産業省関東経済産業局	地域経済部地域振興課長	工藤 浩一
オブザーバー	経済産業省中部経済産業局	地域経済部地域振興課長	嶋田 明彦
オブザーバー	農林水産省関東農政局	企画調整室課長補佐	中村 浩一郎
オブザーバー	農林水産省東海農政局	農村振興部農村計画課長	山方 正治

第2次三遠南信地域連携ビジョン策定詳細スケジュール

San-En-Nanshin Area Relationship Vision Progressive Conference

年度 月	平成29年度												平成30年度													
	4	5	6	7	8	9	10	11	12	1	2	3	4	5	6	7	8	9	10	11	12	1	2	3		
流れ	現ビジョン 検証		策定方針				骨子案報告						最終報告													
策定作業	基礎データ調査		施策体系の見直し			基本方針の検討		意見の反映		事業の洗い出し		事業の検討		原案の作成		事業内容の検討		原案の修正		成案報告						
	策定委員会の流れ		策定方針決定			基本方針調整		骨子決定		事業の決		原案報告		成案決定												
総会																										
委員会	●	●													●											
拡大委員会													●													
策定委員会													●													
幹事会	●	●	●		●				●						●											
分科会													重点プロジェクト整理の進捗状況により、必要に応じて開催													

10/30 三遠南信サミット 遠州

三遠南信サミット 東三河

第 25 回三遠南信サミット 2017 in 遠州 について

San·En·Nanshin Area Relationship Vision Progressive Conference

※ 第 1 回サミット専門委員会(H29.7.20 開催)終了時点。一部検討中の内容を含みます。

- 1 **事業名** 第 25 回三遠南信サミット 2017 in 遠州
- 2 **テーマ** 「250 万流域都市圏、自立への喚起 ～新ビジョンの策定に向けて～」(仮)
- 3 **日時** 平成 29 年 10 月 30 日(月)13:40～19:30
- 4 **会場** アクトシティ浜松(浜松市中区板屋町 111 番地 1)
オークラアクトシティホテル浜松(浜松市中区板屋町 111 番地 2)
- 5 **概要**
 - (1) 全体会(13:40～15:10)
オープニングセレモニー(挨拶、祝辞等)
パネルディスカッション：新ビジョンの基本方針や、新ビジョン策定に向けての意見交換
コーディネーター(予定)：静岡文化芸術大学副学長 池上重弘氏(新ビジョン策定委員長)
パネリスト(予定)：SENA 構成員代表者等
 - (2) 分科会(15:30～17:00)
新ビジョンで想定される重点プロジェクトについて、4 つの分科会(「道」「技」「風土」「山・住」)に分かれて、意見交換や議論を行う。
参加者(予定)：SENA 構成員の代表者、三遠南信地域住民ネットワーク協議会メンバー、3 市市議会議長・大学・信金の代表者
 - (3) 報告会(17:30～17:45)
分科会報告及びサミット宣言
 - (4) 交流会(18:00～19:30)
- 6 **主催** 三遠南信地域連携ビジョン推進会議(SENA)
- 7 **共催** 三遠南信地域経済開発協議会
- 8 **後援** 農林水産省、経済産業省、国土交通省 (後援申請中)
- 9 **参加者** 市町村、商工会議所、商工会、国・県関係者、市町村議会議員、一般ほか
- 10 **参加費** 無料(ただし、交流会参加者は負担あり。)